

西アジア関連学術論文・出版物

(2008年1月～12月)

このコーナーは、会員の皆様が発行した学術論文ならびに出版物を紹介するもので、会員の皆様から寄せられた情報にもとづいて作成しております。日本における西アジア考古学関連の最新の情報が、いつでも手元で参照できる情報源として活用されることを目的としております。今後も会員の方々からの情報提供にご協力をお願いいたします。

『西アジア考古学』10号編集委員

edit_jswaa@yahoo.co.jp

- 足立拓朗 2008.3 「イランにおける最近の考古学的調査の進展」『西アジア考古学』9: 11-18。
- 足立拓朗 2008.5 「考古学からみたメディア(下)」『古代オリエント』81: 1-5 NHK 学園。
- 足立拓朗 2008.7 『ルリカのおいしいたび』中近東文化センター附属博物館。
- 足立拓朗 2008.9 「ヘダージュ1 = ケルン墓群出土の青銅製品」『Newsletter セム系部族社会の形成』11: 7-13 科学研究費補助金特定領域研究「セム系部族社会の形成 ユーフラテス河中流域ビシュリ山系の総合研究」。
- 安倍雅史 2008.3 「南レヴァント地方、都市出現期の遊牧社会の変質 - ジャフル盆地のタビュラー・スクレイパー製作址の研究から - 」『西アジア考古学』9: 45-60。
- 安倍雅史 2008.6 「石器製作から見た専門化の発展 - レヴァント地方南部、前期青銅器時代を事例に - 」『日本西アジア考古学会第13回総会・大会要旨集』47-52 頁 日本西アジア考古学会。
- 安倍雅史 2008.9 「石器製作から見た専門化の発展 - レヴァント地方南部、前期青銅器時代を事例に - 」『オリエント』51(1): 140-164。
- 安倍雅史 2008.3 「ヨルダン南部ジャフル盆地におけるジャフル石刃製作址とジャフル石刃製作技術の研究」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』22: 71-90。
- 有松 唯 2008.3 「イラン北部における青銅器時代から初期鉄器時代への移行 - ノールズ・マハレ遺跡下層出土土器を中心に - 」『オリエント』50(2): 28-54。
- 有松 唯 2008.3 「イラン、カスピ海南西岸域における鉄器時代移行期の様相 - 触角状突起付青銅剣身の分析を中心に - 」『西アジア考古学』9: 130-142。
- Arimura, M. 2007 The Lithic Industry of the Early PPNB Layers at Tell Ain el-Kekrh, Northwest Syria. In A. Laurence, D. Binder and F. Briosis (eds.) *La diversite des systemes techniques des communautes du Neolithique pre-ceramique*. pp.137-151, Editions APDCA, Antibes.
- 石川慎治・濱崎一志・西藤清秀 2008.9 「パルミラ遺跡北墓地 129-b 号墓のオーダーについて」『日本建築学会学術講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠』523-524 頁 日本建築学会。
- 石田恵子 2008.3 「テル・ルメイラ出土の家形模型について」『古代オリエント博物館紀要』27: 1-22。
- 石田恵子 2008.7 「新収蔵品紹介 紡錘形封泥」『オリエント』37: 2-3 古代オリエント博物館。
- 岩崎卓也・常木 晃 2008.11 「総論：国家形成の考古学」『現代の考古学 7 国家形成の考古学』1-32 頁 朝倉書店。
- 上杉彰紀 2008.3 「パロースターン高原における人物土偶に関する
- 覚書 - 岡山市立オリエント美術館の資料紹介を兼ねて - 」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』22: 1-28。
- 上杉彰紀 2008.3 「インダス・プロジェクト 2007 - インド・パキスタンにおけるインダス文明遺跡の調査 - 」『考古学が語る古代オリエント第15回西アジア発掘調査報告会報告集』132-138 頁 日本西アジア考古学会。
- Uesugi, A. 2008.5 Cultural Interaction between the Indus Valley and the Iranian Plateau. *Cultural Relations between the Indus and the Iranian Plateau during the Third Millennium BCE*, pp.20-24, Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan.
- 上杉彰紀 2008.6 「南アジア：古代・中世」『史学雑誌』117(5): 277-281。
- 上杉彰紀 2008.9 「インダス文明社会の成立と展開 - 地域間交流の視点から - 」『古代文化』60(2): 111-120。
- 上杉彰紀 2008.12 「インダス・プロジェクトによるインダス遺跡の発掘調査」『環境変化とインダス文明 2007 年度成果報告書』83-114 頁。
- 上杉彰紀・小茄子川歩 2008.3 「インダス文明社会の成立と展開に関する一考察 - 土器編年を手掛かりとして - 」『西アジア考古学』9: 101-118。
- 宇野隆夫 2008.12 「インダス文明の都市と地形環境」『環境変化とインダス文明 2007 年度成果報告書』55-60 頁。
- 江添 誠 2008.6 「コインの銘にみるデカポリス都市の変遷 - トランス・ヨルダン地域のローマ化の様相 - 」『日本西アジア考古学会第13回総会・大会要旨集』11-16 頁 日本西アジア考古学会。
- 大津忠彦 2008.1 「スタイン滞日記資料にみるシルクロード研究() - Bodleian Library (Oxford) 所蔵資料 Mss. Stein 250 より - 」『紀要』3: 63-73 筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部。
- 大津忠彦 2008.5 「岡崎敬先生の先駆的イラン踏査 - 「岡崎フィールド・ノート」とその後の展開 - 」『九州と東アジアの考古学 - 九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集 - 上巻・下巻』810-826 頁 九州大学考古学研究室 50 周年記念論文集刊行会。
- 大津忠彦 2008.8 「古代イランの「こぶ牛形象土器」 - 平成 19 年度人間文化研究所「特別研究会」に関連して - 」『人間文化研究所年報』19: 123-134 筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所。
- Ohtsu, T. and H. Rajabzadeh 2008 Japanese Travellers to Persia. In *Encyclopaedia Iranica Volume XIV, Fascicle 5*: pp.556-558, New York, Encyclopaedia Iranica Foundation Inc.
- Ohnuma, K. and A. al-Khabour 2008.4 Archaeological Research in the Bishri Region -Report of the Second Working Season-. *Al-Rāfidān* 29: 134-149.

- Ohnuma, K. and A. al-Khabour 2008.4 Archaeological Research in the Bishri Region -Report of the Third Working Season-. *Al-Rāfīdān* 29: 150-169.
- Ohnuma, K. and A. al-Khabour 2008.4 Archaeological Research in the Bishri Region -Report of the Fourth Working Season-. *Al-Rāfīdān* 29: 170-193.
- 小口裕通 2008.3 「メソポタミア考古学研究の近年の歩み」『西アジア考古学』9: 19-26。
- Osada, T. and A. Uesugi (eds.) 2008.1 *Occasional Paper 3 : Linguistics, Archaeology and the Human Past*. Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan.
- Osada, T. and A. Uesugi (eds.) 2008.8 *Occasional Paper 4 : Linguistics, Archaeology and the Human Past*. Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan.
- Osada, T. and A. Uesugi (eds.) 2008.12 *Occasional Paper 5 : Linguistics, Archaeology and the Human Past*. Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan.
- Osada, T. and A. Uesugi (eds.) 2008.12 *Occasional Paper 6 : Linguistics, Archaeology and the Human Past*. Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan.
- 長田俊樹 編 2008.12 『環境変化とインダス文明 2007 年度成果報告書』総合地球環境学研究所・インダスプロジェクト。
- 小高敬寛 2008.6 「西方のサマツラ土器とその性質」『日本西アジア考古学会第13回総会・大会要旨集』64-69頁 日本西アジア考古学会。
- 柏木裕之 2008.6 「エジプト、ダハシュール北遺跡から発見されたシャフト墓の掘削過程について」『日本西アジア考古学会第13回総会・大会要旨集』23-28頁 日本西アジア考古学会。
- 門脇誠二 2008 「西アジア・北アフリカ：古代オリエント 1」『史学雑誌』117(5): 285-288。
- Kadowaki, S. 2008 Ground Stone Tools, Refuse Structure and the Life Histories of Residential Buildings at Ayn Abu Nukhayla, Southern Jordan. In Y. Rowan and J. Ebeling (eds.) *New Approaches to Old Stones: Recent Studies of Ground Stone Artifacts*, pp.230-257, London, Equinox.
- Kadowaki, S., K. Gibbs, A. Allentucka and E.B. Banning 2008 Late Neolithic Settlement in Wadi Ziqlab, Jordan: al-Basat n. *Pal orient* 34(1): 105-130.
- 門脇誠二・久米正吾・西秋良宏 2008.9 「ガーナム・アル・アリ遺跡周辺における先史時代遺跡の踏査 - 第5次ピシュリ現地調査より - 」『Newsletter セム系部族社会の形成』11: 3-6 科学研究費補助金特定領域研究「セム系部族社会の形成 ユーフラテス河中流域ピシュリ山系の総合研究」。
- Kamuro, H. 2008.3 Dyadovo Excavation 2007 -*The Prompt Report*-. Dyadovo Prompt Report Series (DPRS) 3, pp.1-6, Tokai University Thracian Expedition.
- 禿 仁志・千本真生 2008.3 「ブルガリア・トラキア平野の青銅器時代集落の調査 - テル・デアドヴォ遺跡 2007 年度 (第19次) 発掘調査から - 」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』108-115頁 日本西アジア考古学会。
- 禿 仁志・千本真生 2008.5 「ブルガリア・上トラキア平野の青銅器時代研究 - 青銅器時代の始まりに関する2、3の問題について - 」『日本考古学協会第74回総会研究発表要旨』102-103頁 日本考古学協会。
- 禿 仁志・藤田健一・千本真生 2008.5 「ブルガリア共和国テル・デアドヴォ集落研究の一側面 - “石器群”形成過程の研究 - 」『日本考古学協会第74回総会研究発表要旨』150-151頁 日本考古学協会。
- 禿 仁志 2008.5 『ブルガリア青銅器時代集落の構造分析』1-37頁 科学研究費補助金研究成果報告書。
- Kamuro, H. (ed.) 2008.8 Dyadovo Excavations 2006 and 2007. A Preliminary Report on the 18th and 19th Excavations at Dyadovo, Bulgaria. *Dyadovo Studies* 6, pp.1-15, Tokai University Thracian Expedition.
- 禿 仁志・千本真生 編 2008.8 『ブルガリア・デアドヴォ遺跡第18次・第19次発掘調査報告』*Dyadovo Studies* 6, 16-113頁 東海大学トラキア発掘調査団。
- Kamuro, H. 2008.9 The Japanese Excavations of Tell Djadovo in Nova Zagora District, South-Eastern Bulgaria. In *Archaeological and Historical Research in the Region of Nova Zagora, Vol.2*, pp.21-23, Nova Zagora Historical Museum.
- Kamuro, H. 2008.9 An Aggregation of Oven Data found in Djadovo-Tell, Nova Zagora District, Bulgaria. In *Archaeological and Historical Research in the region of Nova zagora, Vol.2*, pp.24-50, Nova Zagora Historical Museum.
- 禿 仁志 2008.9 「トラキア人：その実像を探る」『よみがえる黄金文明展 - ブルガリアに眠る古代トラキアの秘宝 - 図録』21-24頁 東映。
- 禿 仁志 2008.9 「トラキア遺宝とその背景」『よみがえる黄金文明展 - ブルガリアに眠る古代トラキアの秘宝 - 図録』177-180頁 東映。
- 禿 仁志 2008.9 「バラの谷・トラキア王・考古学」『よみがえる黄金文明展 - ブルガリアに眠る古代トラキアの秘宝 - 図録』177頁 東映。
- 河合 望 2008.5 「王墓の内部構造」『エジプト王家の谷・西谷学術調査報告[1] - アメンヘテプ III 世王墓 (KV22) を中心として』30-57頁 中央公論美術出版。
- 河合 望 2008.5 「主要出土遺物」『エジプト王家の谷・西谷学術調査報告[1] - アメンヘテプ III 世王墓 (KV22) を中心として』139-204頁 中央公論美術出版。
- 河合 望 2008.6 「作品解説」『吉村作治の新発見！エジプト展 国立カイロ博物館と』37-94頁 飛来社。
- 河合 望 2008.11 「トゥタンクアメン王によるカルナク、アメン大神殿の復興について」『日本オリエント学会第50回大会公開講演・研究発表要旨集』29頁 日本オリエント学会。
- Kawai, K. 2008.5 Ay versus Horemheb: a Reappraisal of the Political Situation in the Late Eighteenth Dynasty. *The Tenth International Congress of Egyptologists: Abstracts of Papers*, pp.129-130, The University of Aegean, Rhodes.
- Kawai, N. 2008.7 An Early Cult Center at Abusir-Saqqara? Recent Discoveries at a Rocky Outcrop in Northwest-Saqqara. *Abstracts of Papers Presented at the Third International Colloquium on Predynastic and Early Dynastic Egypt*, pp.115-117, The British Museum, London.
- Kawai, N. 2008.11 The Objects. *Excavating in Egypt for 40 years: Waseda University Expedition 1996-2006 the Catalogue of a Special Exhibition in the Egyptian Museum, Cairo*, pp.11-32, Akhet Press.
- 川床睦夫・真道洋子 2008.3 「日本クウェイト合同調査隊によるラーヤ・トゥール地域の考古学的調査 (第27次)」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』24-30頁 日本西アジア考古学会。
- 川西宏幸・辻村純代 2008.3 「エジプト・アコリス遺跡の調査 - 2007 - 」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』19-23頁 日本西アジア考古学会。

- 間舎裕生 2008.6 「後期青銅器時代南レヴァントにおけるエジプト支配の性格 - 「エジプト総督居館」を事例として - 」『日本西アジア考古学会第13回総会・大会要旨集』17-22頁 日本西アジア考古学会。
- 木内智康 2008.3 「前3千年紀末から前2千年紀初頭の北メソポタミア - テル・サラサートI号丘第III層出土土器の再検討 - 」『西アジア考古学』9: 81-100。
- 久米正吾 2008.11 「古代西アジアの鏡」「73 青銅鏡」ほか1点 『服部コレクション・鏡の世界』48-51頁 早稲田大学會津八一記念博物館。
- 桑原久男 2008.3 「イスラエル、テル・レヘシュ遺跡2007年(第2次・第3次)発掘調査」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』97-102頁 日本西アジア考古学会。
- 小泉龍人 2008.3 「ウバイド期に関する国際研究集会」『西アジア考古学』9: 165-169。
- 小泉龍人 2008.7 「北シリア踏査紀行 - ウバイド土器の分布と拡散 - 」『オリエント』37: 8-12. 古代オリエント博物館。
- 小磯 学 2008.9 「インダス文明の腐食加工紅玉髓製ビーズと交易活動」『古代文化』60(2): 95-110。
- 小磯 学 2008.12 「カーンメール遺跡出土の紅玉髓製ビーズとペンダント」『環境変化とインダス文明2007年度成果報告書』73-82頁 総合地球環境学研究所。
- 小茄子川歩 2008.3 「ナール式土器とその意義 - 岡山市立オリエント美術館所蔵資料の紹介を兼ねて - 」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』22: 29-55。
- 小茄子川歩 2008.6 「都市と伝統の創出 - 彩文土器の変容からみたインダス文明の成立と展開」『考古学研究』55(1): 61-81。
- 小茄子川歩 2008.9 「コート・ディゼー式土器とハラッパー式土器 - ハラッパー式土器の起源に関する一考察」『古代文化』60(2): 70-83。
- 小山 満・川崎建三・福本一茂 2008.3 「ダルヴェルジン・テパ第二仏教寺院址の発掘 - 2007年度の調査より - 」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』146-151頁 日本西アジア考古学会。
- 近藤二郎 2008.3 「早稲田大学による2007年度のエジプト調査 - アブ・シール南丘陵遺跡第16次調査、ダハシュール北遺跡第13次、14次調査およびテーベ西岸(岩窟墓および王墓)調査 - 」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』10-14頁 日本西アジア考古学会。
- 近藤英夫 2008.9 「インダス都市の成立をめぐる諸問題」『古代文化』60(2): 237-244。
- 近藤英夫 2008.11 「都市とは何か - インダス文明を例に - 」『国家形成の考古学』33-51頁 朝倉書店。
- 西藤清秀 2008.3 「シリア・パルミラ地下墓に見る経済差」『王権と武器と信仰 - 菅谷文則先生退任記念論文集』546-558頁 同成社。
- Saito, K. 2008.6 Sheep Metacarpal Bones Accompanying the Dead at an Underground Tomb in Palmyra. WAC-6 Ireland 2008, World Archaeological Congress, pp.280.
- 西藤清秀 2008.11 「日本考古学と国際交流 - 過去・現在・未来 - 西アジアにおける国際交流」『日本考古学』26: 165-170。
- 西藤清秀 2008.12 「シリア・パルミラの女性遺体と羊の中手骨」『セム系部族社会の形成 Newsletter』12: 11-15. 科学研究費補助金特定領域研究「セム系部族社会の形成 ユーフラテス河中流域ピシュリ山系の総合研究」。
- 西藤清秀・濱崎一志・石川慎治・吉村和昭・佐藤聖聖・佐々木玉季 2008.3 「パルミラの有力者の墓を掘る - シリア・パルミラ遺跡北墓地129-b号墓2007の調査」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』90-96頁 日本西アジア考古学会。
- 坂本 翼 2008.3 「アル=クッル遺跡に存在する「第25王朝の祖先墓」の年代」『遡航』26: 45-58。
- 佐々木達夫 2008.3 『地域社会の文化遺産から探るイスラーム陶器の文化的変遷』科学研究費補助金研究成果報告書。
- 佐々木達夫 2008.4 「ペルシア湾岸遺跡出土陶磁器の研究発表を聞いて」『金大考古』60: 1-5。
- 佐々木達夫 2008.8.22 「緑化で消える砂漠の民の痕跡」『北陸中日新聞』。
- 佐々木達夫 2008.9 「温暖化と砂漠緑化と遺跡消滅」『金大考古』62: 1-3。
- 佐々木達夫・佐々木花江 2008.3 「コールファッカンの砦と町跡の発掘調査概要」『金沢大学考古学紀要』29: 60-175。
- 佐々木達夫・佐々木花江 2008.3 「オマーン湾の中世港町遺跡コールファッカ - 第4次~第6次発掘 - 」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』103-107頁 日本西アジア考古学会。
- 佐々木達夫・佐々木花江・野上建紀 2008.3 「パーミヤーン出土のイスラーム陶器」『金沢大学考古学紀要』29: 1-30。
- 四角隆二 2008.3 「岡崎コレクションと安原コレクションに見る我が国オリエント考古美術蒐集」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』22: 56-70。
- 四角隆二 2008.5 「西アジア・北アフリカ: 古代オリエント2」『史学雑誌』117(5): 289-293。
- 四角隆二 2008.11 「西アジアの初期施釉陶器とガラス製品の理化学的研究」『高梨学術奨励基金年報』174-177頁。
- 四角隆二・中井泉 2008.10 「ローマ・ガラスとサーサーン・ガラス - 岡山市立オリエント美術館所蔵品の蛍光X線分析結果化から」『新羅文化と西アジア文化』289-317頁 国立慶州博物館。
- 宗臺秀明 2008.3 「近年のペルシヤ湾岸地域の研究動向」『西アジア考古学』9: 35-38。
- シュマント=ベッセラ, デニス(小口好昭・中田一郎訳) 2008.5 『文字はこうして生まれた』岩波書店(原著 Schmandt-Besserat, D. 1996 *How Writing Came About*. Austin, University of Texas Press).
- Shinde, V., T. Osada, M. M. Sharma, A. Uesugi, T. Uno, H. Maemoku, P. Shirwalkar, S. S. Deshpande, A. Kurkarni, A. Sarkar, V. Rao and V. Dangi 2008.1 Exploration in the Ghaggar Basin and Excavations at Girawad, Farmana (Rohtak District) and Mitathal (Bhiwani District), Haryana, India. *Occasional Paper 3: Linguistics, Archaeology and the Human Past*, pp.77-158, Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- Shinde, V., T. Osada, A. Uesugi and M. Kumar 2008.12 A Report on Excavations at Farmana 2007-08. *Occasional Paper 6: Linguistics, Archaeology and the Human Past*, pp.1-116, Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- 杉本智俊 2008.3 『図説 聖書考古学 旧約篇』河出書房新社。
- 杉本智俊 2008.3 「最近10年間の考古学的調査の進展: 南レヴァントの場合」『西アジア考古学』9: 27-34。
- 鈴木香枝 2008.6 「ワディ・アブ・トレイハ遺跡出土のゲーム盤について」『日本西アジア考古学会第13回総会・大会要旨集』59-63頁 日本西アジア考古学会。
- 関広尚世 2008.9 「スベア遺跡群のいま - 世界遺産条約制定のきっかけとなった遺跡群が語るもの - 」『考古学研究』55(2): 12-17。
- 高橋寿光 2008.3 「石製およびガラス製容器を模倣した彩文土器から

- 見た第18王朝後半のディール・アル=マディーナの絵師」『オリエンテ』50(2): 181-203。
- 高橋寿光 2008.3 「カイロ・エジプト博物館所蔵のハティアイ墓出土土器について」『西アジア考古学』9: 159-164。
- 高橋寿光・吉村作治・河合望・阿部善也・中井泉 2008.3 「エジプト・アブシール南丘陵遺跡から出土した青色彩文土器のX線分析」『日本西アジア考古学会第13回総会・大会要旨集』29-34頁 日本西アジア考古学会。
- 高宮いづみ 2008.3 「エジプト先王朝時代研究この10年」『西アジア考古学』9: 39-44。
- 高宮いづみ 2008.11 「ナイル河下流域における交易システムの発展と初期国家の形成 - 下ヌビアにおけるナカダ文化とAグループ文化の交易システム - 」『国家形成の考古学』161-179頁 朝倉書店。
- 谷一 尚 2008.9 「ガラスの道 - 西アジア・中国・韓国・日本・正倉院 - 」『新羅、西アジアと出会う』158-164頁 慶州国立博物館・済州国立博物館。
- 月本昭男 2008.3 『古典としての旧約聖書』 聖公会出版。
- 月本昭男・高橋三郎 2008.12 『エロヒム歌集 - 詩篇第42篇~第72篇講義』 教文館。
- 月本昭男・山吉智久・山野貴彦 2008.5 『図説 聖書の世界』 学習研究社。
- Tsuneki, A. 2008.3 A Short History of Ganam al-Ali Village. In K. Ohnuma and S. al-Shbib (eds.) *Archaeological Research in the Bishri Region - Report of the Fourth Working Season -*. *Al-Rafidān* 29: 184-190.
- Tsuneki, A. and M. Zeidi 2008.3 *Tang-e Bolaghi: The Iran-Japan Archaeological Project for the Sivand Dam Salvage Area*. Al-Shark 3, University of Tsukuba, Studies for West Asian Archaeology, Iranian Center for Archaeological Research and Department of Archaeology, University of Tsukuba.
- 常木 晃 2008.3 「新石器時代の巨大集落 - シリア、テル・エル・ケルク遺跡の2007年度調査 - 」『考古学が語る古代オリエンテ 考古学が語る古代オリエンテ 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』29-34頁 日本西アジア考古学会。
- 常木 晃 2008.3 「西アジア考古学この10年 特集に寄せて」『西アジア考古学』9: 1-2。
- 常木 晃 2008.6 「西アジアにおける墓地の成立」『日本西アジア考古学会第13回総会・大会要旨集』70-75頁 日本西アジア考古学会。
- 常木 晃・西山伸一・長谷川敦章 2008.10 「北西シリア、テル・エル・ケルク1号丘の発掘調査」『日本オリエンテ学会第50回大会公開講演・研究発表要旨集』57頁 日本オリエンテ学会。
- 津村真輝子 2008.3 「一括出土コインの調査(新疆出土のサーサーン式銀貨)」『明日の東洋学』19: 5-8 東京大学東洋文化研究所附属東洋学情報センター。
- 津村真輝子 2008.3 「シリア、テル・ミシヨルフェ遺跡出土ローマコインの調査概報」『古代オリエンテ博物館紀要』27: 117-126。
- 津村真輝子 2008.4 「広がり行くペガサス - コインに描かれたペガサス」『特別展天馬』201-203頁 奈良国立博物館。
- 津村真輝子 2008.7 「特別展展示品紹介 エジプトのコイン」『オリエンテ』37: 20 古代オリエンテ博物館。
- 寺村裕史・近藤康久・宇野隆夫・菅頭明日香・岸田徹・酒井英男 2008.12 「インダス・プロジェクトにおける考古学 GIS 班のこれまでの活動」『環境変化とインダス文明 2007年度成果報告書』61-72頁。
- Teramura, H., Y. Kondo, T. Uno, A. Kanto, T. Kishida and H. Sakai 2008.12 *Archaeology with GIS in the Indus Project. Occasional Paper 5: Linguistics, Archaeology and the Human Past*. pp.45-101, Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- トゥルグノフ, B.・小山満・川崎建三・S.パンジエフ・A.ウルマソフ・金内新司・水流宏幸・福本一茂・石塚健治 2008.3 「ダルヴェルジン・テバ第二仏教寺院址の発掘: 2006-07年度調査概報」『シルクロード研究』5: 1-87。
- 中井義明 2008.2 「前三七五年の平和」『立命館文学』604: 11-19。
- 中井義明 2008.3 「前三七五年の平和の破綻」『古代史年報』6: 21-37。
- 中野智章 2008.7 「エジプト・ブームの幕開けとイトン・コレクションの誕生」『オリエンテ』37: 18 古代オリエンテ博物館。
- Nishiaki, Y. 2007 A Unique Neolithic Female Figurine from Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria. *Pal orient* 33(2): 117-125.
- Nishiaki, Y. and M. Le Mire 2008 Stratigraphic Contexts of the Early Pottery Neolithic at Tell Seker al-Aheimar, the Upper Khabur, Northeast Syria. In H. K hne, R. M. Czichon and F. J. Kreppner (eds.) *Proceedings of the 4th International Congress of the Archaeology of the Ancient Near East, Vol. 2*. Wiesbaden, Harrassowitz Verlag, pp.377-386.
- Nishiaki, Y. 2008 *Naissance des D vinities: Figurine feminine exceptionnelle du n olithique*. Damascus: Minist re de la Culture, Direction G n rale des Antiquit s et des Mus es.
- 西秋良宏 2008.3 「縄文時代開始期と同じ頃の西アジア - 旧石器時代から新石器時代への移行 - 」『縄文時代のはじまり』20-39頁 六一書房。
- 西秋良宏 2008.6 「北メソポタミア初期農耕村落の起源 - シリア、テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡第8次発掘調査 - 」『考古学が語る古代オリエンテ 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』47-51頁 日本西アジア考古学会。
- 西秋良宏 2008 「ダマスカス首都祭 “神々の誕生”展」『ウロボロス』13(2): 6-7 東京大学総合研究博物館。
- 西秋良宏 2008 「ダマスカス首都祭での女神像公開」『文部科学教育通信』190: 43。
- 西秋良宏・仲田大人・米田穰・近藤修・丹野研一・山本優太・宮崎倫理・小島光博・赤澤威 2008 「シリア、デデリエ洞窟における先史人類学的調査(2006-2007年度)」『高知工科大学紀要』5: 9-23。
- 西秋良宏・仲田大人・米田穰・近藤修・丹野研一・Y. カンジョ・S. ムヘイセン・赤澤威 2008 「現生人類の起源を探る - シリア、デデリエ洞窟の2003-2007年度調査 - 」『考古学が語る古代オリエンテ 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』32-38頁 日本西アジア考古学会。
- 西山伸一・長谷川敦章 2008.3 「北レヴァントの青銅器・鉄器時代都市 - シリア, テル・エル・ケルク1号丘遺跡第1次(2007)発掘調査 - 」『考古学が語る古代オリエンテ 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』70-78頁 日本西アジア考古学会。
- 沼本宏俊 2008.3 「アッシリア帝国の拠点遺跡 - シリア、テル・タバンの遺跡の第7次発掘調査(2007年) - 」『考古学が語る古代オリエンテ 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』79-85頁 日本西アジア考古学会。
- Numoto, H. 2008.4 Excavations at Tell Taban, Hassake, Syria (6): Preliminary Report of the 2006 Season of Work. *Al-Rafidān* 29: 1-46.
- 芳賀 満・古庄浩明・宇野隆夫・相馬拓也 2008.3 「中央アジアのギリシア系都市を掘る - ウズベキスタン共和国カンピール・テバ遺跡第2次発掘調査 - 」『考古学が語る古代オリエンテ 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』139-145頁 日本西アジア考古

- 学会。
- 長谷川敦章 2008.3 「ミネト・エル・ベイダ出土新資料の考古学的検討 - 埋葬遺構の年代考察を中心に」『オリエント』50(2): 1-27。
- 長谷川敦章 2008.3 「テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の測量調査」『Newsletter セム系部族社会の形成』10: 5-9. 科学研究費補助金特定領域研究「セム系部族社会の形成 ユーフラテス河中流域ピシュリ山系の総合研究」。
- 長谷川敦章・木内智康・根岸洋・大沼克彦 2008.3 「農耕と牧畜のはざまに ユーフラテス河中流域の青銅器時代拠点集落 - シリア、ピシュリ山系、テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の2007年度発掘調査 - 」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』62-69頁 日本西アジア考古学会。
- 長谷川敦章 2008.6 「小型板状青銅製品に関する一考察 - ミネト・エル・ベイダ出土資料の検討を中心に - 」『日本西アジア考古学会 第13回総会・大会要旨集』35-40頁 日本西アジア考古学会。
- 長谷川敦章 2008.10 「北レヴァントにおけるミケーネ土器」『日本オリエント学会第50回大会公開講演・研究発表要旨集』6頁 日本オリエント学会。
- 長谷川敦章・木内智康 2008.10 「シリア・ピシュリ山系、テル・ガーネム・アル・アリ遺跡の発掘調査」『日本オリエント学会第50回大会公開講演・研究発表要旨集』61頁 日本オリエント学会。
- 長谷川修一 2008 「イエフによるヨラムとアハズヤ殺害主張の背景 - 歴史叙述的観点から - 」『史苑』68(2): 32-49。
- 濱崎一志・石川慎治・西藤清秀 2008.09 「パルミラ遺跡北墓地 129-b 号墓の復元について」『日本建築学会学術講演梗概集 F-2 建築歴史・意匠』521-522頁 日本建築学会。
- 林 俊雄 2008.2 「騎馬遊牧民スキタイと東西文化交流」『オリエント』36: 13-20 古代オリエント博物館。
- Kharakwal, J.S., Y.S. Rawat and T. Osada 2008.12 Preliminary Observations on the Excavation at Kanmer, Kachchh, India 2006-2007. *Occasional Paper 5: Linguistics, Archaeology and the Human Past*, pp. 5-23, Indus Project, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- 春田晴郎 2008.9 「書評：青木健 『ゾロアスター教の興亡：サーサーン朝ペルシアからムガル帝国へ』」『オリエント』51(1): 201-207。
- 菱田哲郎・橋本英将・亀井宏行 2008.3 「エジプト西方砂漠ハルガオアシス、アル・ザヤーン神殿遺跡の発掘調査」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』15-18頁 日本西アジア考古学会。
- 平敷イネ 2008.7 「ヒッタイト帝国の王と山の神」『オリエント』37: 13-17 古代オリエント博物館。
- 藤井純夫 2008.3 「新石器時代ヨルダンの移牧春营地：ワディ・アブ・トレイハの第5次調査(2007)」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』52-60頁 日本西アジア考古学会。
- 藤井純夫 2008.3 「ベドウィンの「少年の家」 - ヨルダン南部、ワディ・ブルマ東遺跡の考古学的調査 - 」『西アジア考古学』9: 143-158。
- 藤井純夫・足立拓朗 2008.6 「ピシュリ山系北麓ケルン墓群の年代と考古学的意義」『日本西アジア考古学会 第13回総会・大会要旨集』53-58頁 日本西アジア考古学会。
- 藤井純夫 2008.10 「ピシュリ山系北麓のケルン墓群について」『日本オリエント学会第50回大会公開講演・研究発表要旨集』14頁 日本オリエント学会。
- Fujii, S. 2007 Wadi Abu Tulayha: A Preliminary Report of the 2006 Summer Field Season of the Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 51: 373-402.
- Fujii, S. 2007 PPNB Barrage Systems at Wadi Abu Tulayha and Wadi Ruweishid as-Sharqi: A Preliminary Report of the 2006 Spring Field Season of the Jafr Basin Prehistoric Project, Phase 2. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 51: 403-427.
- Fujii, S. 2008 Two Petroglyphs from Wadi Abu Tulayha, a PPNB Agropastoral Outpost in the Jafr Basin. *Neo-Lithics* 1/08: 9-16.
- Fujii, S. and M. Abe 2008 PPNB Frontier in Southern Jordan: A Preliminary Report on the Archaeological Surveys and Soundings in the Jafr Basin, 1995-2005. *Al-Rāfidān* 29: 63-94.
- Fujii, S. and R. Tokunaga 2007 A Brief Report on Hismaic Inscriptions from Rus Abu Tulayha in the Jafr Basin, Southern Jordan. *Annual of the Department of Antiquities of Jordan* 51: 361-372.
- Ponce de Leon, M.S., L. Golovanova, V. Doronichev, G. Romanova, T. Akazawa, O. Kondo, H. Ishida and C.P.E. Zollikofer 2008.9 Neanderthal Brain Size at Birth Provides Insights into the Evolution of Human Life History. *Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America* 105(37): 13764-13768.
- Maeda, O. 2007 Meanings of Obsidian Exchange and Obsidian Use at Akar ay Tepe. In A. Laurence, D. Binder and F. Briois (eds.) *La diversite des systemes techniques des communautes du Neolithique pre-ceramique*, pp.245-254, Editions APDCA, Antibes.
- al-Maqdissi, M. 2008.4 Preliminary Report of the Syria-Japan Archaeological Joint Research in the Region of al-Raqqqa, Syria, 2007. *Al-Rāfidān* 29: 117-133.
- 松尾登史子 2008.3 「マケドニア考古学の成立と展開」『西アジア考古学』9: 171-182。
- 松本 健 2008.3 「ヨルダン、ウムカイス遺跡の調査とイラク向け第3回文化遺産研修」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』116-121頁 日本西アジア考古学会。
- 松本 健 2008.11 「国家形成期としてのウルク期」『国家形成の考古学』131-159頁 朝倉書店。
- Miyake, Y. 2008.5 2006 Yılı Diyarbakır İli, Salat Camii Yanı Kazısı. 29. *Kazı Sonuçları Toplantısı* 3. Cilt. 211-222. T.C. Kültür ve Turizm Bakanlığı Kültür Varlıkları ve Müzeler Genel Müdürlüğü.
- 三宅 裕 2008.3 「トルコ考古学この10年」『西アジア考古学』9: 3-9。
- 三宅 裕 2008.9 「古代西アジアにおける銅冶金術の歴史」『Journal of MMIJ (資源・素材学会誌)』124: 554-561。
- 宮下佐江子 2008.2 「パルミラのテッセラ」『オリエント』36: 3-4. 古代オリエント博物館。
- 宮下佐江子 2008.3 「パルミラ女性彫像の動物意匠装飾装身具について」『古代オリエント博物館紀要』27: 23-40。
- 矢澤 健 2008.3 「エジプト中王国時代の祭祀土器の廃棄堆積について - アブ・シール南丘陵遺跡の例とその時間的变化 - 」『西アジア考古学』9: 119-130。
- 山内和也・有村 誠 2008.3 「アフガニスタン、パーミヤン遺跡保存事業 - 第8次ミッションの成果 - 」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』152-157頁 日本西アジア考古学会。
- 山内和也・岩井俊平 2008.3 「タジキスタン、アジナ・テバ仏教寺院の保存事業 - 2007年度の成果 - 」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』158-162頁 日本西アジア考古学会。
- 山内和也・西山伸一 2008.3 「イラン、ファールス地方シヴァンド川ダム建設に伴う遺跡救済プロジェクト - 2007年、ボラーギー谷

- とパサルガダエ平原の考古学調査 - 」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』122-131頁 日本西アジア考古学会。
- Yamada, S. 2008.4 A Preliminary Report on the Old Babylonian Texts from the Excavation of Tell Taban in the 2005 and 2006 Seasons: The Middle Euphrates and Habur Areas in the Post-Hammurabi Period. *Al-Rāfidān* 29: 47-62.
- Yamada, S. 2008.4 Qurdi-Assur-lamur: His Letters and Career. In M. Cogan and D. Kahn (eds.), *Treasures on Camel's Humps: Historical and Literary Studies from the Ancient Near East Presented to Israel Eph al*, pp.296-311, Jerusalem, Magnes Press.
- 山田重郎・柴田大輔 2008.3 「2007年シリア、テル・タバンの遺跡出土楔形文字文書」『考古学が語る古代オリエント 第15回西アジア発掘調査報告会報告集』86-89頁 日本西アジア考古学会。
- 山花京子 2008.06 「古代のレシピ - ガラス編」『GLASS』52: 50-55。
- 山花京子 2008.07 「古代オリエントでの釉薬の誕生」『オリエント』37: 4-7 古代オリエント博物館。
- Yamahana, K. 2008.8 Scientific Contribution to Archaeology: Fingerprinting the Ancient Egyptian Objects. *XXI Congress of the International Union of Crystallography, IUCr2008 Osaka, 23-31 August 2008, Book of Abstracts, Session MS95.2*, pp.C158-9.
- Yamahana, K. 2008 Four New Kingdom Vitreous Artifacts of Amenophis III from Nariwa Museum: A Tentative Interpretation of Synchrotron Radiation X-ray Fluorescence Analysis. *Orient* 43: 61-73.
- 山藤正敏 2008.3 「前期青銅器時代 I-III 期パレスティナ地域におけるセトルメント・パターンの変遷と地域性」『西アジア考古学』9: 61-79。
- 山藤正敏 2008.6 「前期青銅器時代パレスティナ地域における「都市化」 - セトルメント・パターンの変動とその要因について - 」『日本西アジア考古学会第13回総会・大会要旨集』41-46頁 日本西アジア考古学会。
- 山藤正敏 2008.2 「前期青銅器時代におけるセトルメント・パターンの変遷」『イスラエル考古学研究会ニュースレター』5: 4-7。
- 雪嶋宏一 2008.9 『スキタイ騎馬遊牧国家の歴史と考古』雄山閣。
- 吉田茂生・山花京子・村田勲・堀口哲男 2008 「古代エジプト遺物中微量元素の中性子放射化法による分析」『近畿大学原子炉等利用共同研究経過報告書 平成19年度』75-78頁 大阪大学大学院工学研究科。
- 吉村作治・近藤二郎・河合望・柏木裕之・西坂朗子・高橋寿光・矢澤健 2008.3 「発掘調査概要」『エジプト学研究別冊12号 アブ・シール南丘陵遺跡第16次調査報告』47-65頁 早稲田大学エジプト学会。
- 和田浩一郎 2008.9 「古代エジプト・新王国時代の土坑墓埋葬における頭位方向について」『オリエント』51(1): 87-109。